

ただのリスニング練習ではなく、リスニング指導を。

『Top-Up Listening』は、教師にリスニングの指導をさせてくれます。このシリーズは教室でのリスニング練習のための本ではなく、どのように英語のリスニングをすれば良いのかを明確に教えてくれるテキストなのです。

トップ・ダウンは、私達が聞いた事柄の意味を推測（勘ではなく、何らかの根拠に基づいた推測）するために、世の中についての知識や会話の構成についての知識をどのように駆使しているかということの評するものです。

そしてボトム・アップは、聞こえたことの意味を理解するために、言語の音そして様々な音が一つの流れとしてどのように聞こえるかということに関する知識をどう使っているかということ形容するものです。つまり、私達は音の流れを解読することにより意味を理解しているというわけです。

『Top Up Listening』は、このトップ・アップとボトム・アップという2つのスキルを明確に指導している、唯一のリスニング・テキストです。

リスニング指導のために現在使われているアプローチ

●Exposure Method (sic):

リスニング練習に使われる一般的なアプローチです。学習者は、あるリスニング題材を聞かされた後、内容が理解できているかをチェックするための質問に答えさせられます。学習者は聞いたこと全てを理解できないかも知れませんが、くり返しくり返し英語の音に曝され、練習を積み重ねることでリスニング力は向上させることができるのだと指導されます。リスニング・スキルに関しての明確な指導はなく、なんとなくリスニングを学ぶというアプローチです。

●Predict and Check:

トップ・ダウン・リスニング・スキルに関しての明確な指導があります。学習者は、提示されたある状況を見て、その場面で行われそうな会話を推測するよう指示されます。推測した後、学習者は実際にそのリスニング題材を聞き、自分達の推測が正しかったかどうかを確認するわけです。こうした練習は、学習者が様々な状況について自分の持っている知識をうまく使えるようになること、そして今後英語を聞く機会があった際に、場面場面でどのような会話を耳にするかをよりうまく推測できるようになることを目的としています。このタスクが、あるトピックに対して学習者の意識を向けさせることを目的として行われる、活性化のためのエクササイズとは異なる作業であることは言うまでもありません。

●Teaching the Phonological System:

このアプローチでは、学習者に対して英語の音声システムの働きのいくつかが明確に提示されます。学習者は音の繋がりを聞き、その中で注目されるべき英語の音声的特徴の例を認識するようにと指導されます。こうした練習は、学習者のボトム・アップスキルを開発することを目的としています。

リスニングは教えなければならない。単純な聞き取り練習は充分ではない
リスニングの”練習”とは対照的に、リスニングを”教える”ということには、学習者のトップ・ダウンとボトム・アップそれぞれの能力を、両方とも伸ばしていくことが要求されます。とはいえ、これを実現することはそう簡単ではありません。

●Predict and Check:

『推測して確認する』エクササイズに使われる会話の選択には、その会話がどんな学習者にも必ず推測できるものを用意するという配慮が必要です。社交的やりとりのタイプの多くは、それぞれにある一定のいわゆる『台本』があるので、その内容を推測することが可能です。そして、様々な会話には決まったパターンがないため、推測が不可能なものもあります。下記の2つのエクササイズを比較してみましょう。

- 1) Jane went to Mexico. What do you think she did?
- 2) Jane is in a restaurant ordering breakfast. What do you think the waiter will say?

最初のエクササイズは、交わされるであろう会話に何のパターンも決まり文句もないため、教えようがないばかりか推量することに殆ど意味がありません。2つめのエクササイズでは、会話のパターン、言い換えればレストランで朝食を注文するときに見える『台本』を学習者に指導することができます。一方は推測（何らかの根拠に基づいた推測）が可能であり、一方はそうではありません。学習者の推測の力を向上させたいのであれば、会話のパターン或いはある種の台本に関する知識を増やしてあげる必要があるのです。リスニングのテキストを選定する際には、この点に留意しなければなりません。

●Phonological Features:

英語の音声の特徴に焦点をあてたエクササイズには、聞いたことを理解できるか否かに影響を与える大切な点について注目していないものがたくさんあります。名詞の単数・複数形の音の違いなどといった、発音に関するエクササイズを用意しているなテキストはよくあります。こうした音の違いは、”発音”を学習するためのテキストでは重要な項目ですが、リスニングや聴解力のためのテキストでは重要ではありません。リスニングのテキストで取り上げられるべき音声的特徴は、節レベルでの音声的特徴、つまり単語と単語が文の中でどのように繋がるのか、音がどう混じり合い、消滅し、そして挿入されるのかという、話し言葉の動的な特徴なのです。

『Top Up Listening』

今日までに出版されているリスニング・テキストの中で、学習者のトップ・ダウンおよびボトム・アップ両方のスキルの向上に役立ち、上に述べた要点に配慮して作られているものはただ一冊しかありません。それが『Top-Up Listening』です。

どうぞ他のテキストと比較してください。その違いは歴然です。